



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境点検制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

= BEE^{1.5} ★★★★★★ ★★★★★★ B⁺:★★★★ B⁻:★★★ C:★★★★★

100 3.0 1.5 BEE=1.0

環境品質 Q

50 80 1.5 33 0.5

0 0 50 100

環境負荷 L

S A B⁺ B⁻ C

☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆☆

標準計算

■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンライン ■オフサイト

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

+④上記 79%

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

Score scale: 1, 2, 3, 4, 5

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

項目	スコア
音環境	3.0
温熱環境	3.8
光・視環境	2.8
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

項目	スコア
機能性	3.0
耐用性	2.9
対応性	2.9

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 2.2

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

項目	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

項目	スコア
水資源	3.0
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

項目	スコア
地球温暖化	3.8
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

総合		その他
周辺環境に配慮するとともに、建物形状や色彩が周辺環境と調和するように計画する。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
室内環境向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用する。	耐久性に優れた建物を計画する。	緑地を豊富に計画し、良好な住環境の形成に配慮する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を取得予定。	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物を含まない建材を使用している。	・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO2の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)西区笹塚町二丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。